

令和6年度補助金等支出明細書

一般財団法人 日本食生活協会

1. 補助金等の名称	感染症予防事業費等補助金(地域の健康増進活動支援事業)		
2. 事業の目的及び内容	食生活改善推進員が牽引するヘルスサポーター養成事業 ～住民ONE TEAMで健康寿命をのばそう～		
(1) 目的	<p>一般財団法人日本食生活協会は、人は「健康」であることが「幸せ」になるための基本とし、昭和30年に設立。栄養指導車(いわゆるキッチンカー)の巡回により戦後の栄養改善指導等に取り組んだ。このキッチンカー事業を通じて、栄養・食生活改善は民間の活力と行政施策の調和によって実現できると認識され、住民ボランティアを巻き込み、「食生活改善推進員」として昭和45年に全国組織化を実現した。その後、食生活改善推進員は半世紀以上に亘り「私達の健康は私達の手で」をスローガンに、みんな(住民参加型)でつくる「元気で長生き”健康なまち”」を目指し、食を中心とした、料理講習会や家庭訪問等を通して草の根の活動を展開している。</p> <p>厚生労働省が令和6年度に開始する「健康日本21(第三次)」では、ビジョンとして「全ての国民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現」を掲げている。</p> <p>このビジョンを踏まえ、当協会ではこれまでの草の根活動の知識と経験を持つ食生活改善推進員は令和5年度より「健康日本21(第三次)」に向けた基盤づくりとして「ヘルスサポーター」の養成を開始した。令和6年度も引き続き養成を行い、食生活改善推進員と一緒に健康づくりの担い手として、それぞれのネットワークを活用しながら地域で普及することで「健康日本21(第三次)」の推進を図る。</p> <p>また、「健康日本21(第三次)」においても様々なライフステージにおける課題に沿った取組が重要とされ「健康日本21(第二次)」の結果を踏まえた取組を引き続き進めるとしている。</p> <p>そこで、これまで「若者」「働き」「高齢」のライフステージに応じた活動で培った知識と経験を踏まえた取組と、令和4年度及び令和5年度のアンケート調査結果を活用し、「ヘルスサポーター」の養成を進める。</p> <p>一方で、令和元年に策定の「健康寿命延伸プラン」では2040年までに健康寿命を男女ともに3年以上延伸し75歳以上にすることを目標に掲げ誰もがより長く元気に活躍できる社会の実現を目指し「自然に健康になれる食環境づくり」や「行動変容を促す仕掛け」が求められている。さらに介護予防・フレイル対策・認知症予防においては「通いの場」の拡充や「共生」が示され、健康を支え、守るための社会環境の整備としてソーシャルキャピタルの醸成の重要性が言われている。</p> <p>そこで「ヘルスサポーター」の養成を継続することで地域とのつながりの強化や主体的に健康づくりを進める人の増加、食生活改善推進員が牽引するヘルスサポーター養成事業</p>		
(2) 具体的な内容	<p>1)運営委員会 事業の企画・運営等について協議した。</p> <p>2)道府県・市協議会代表者説明会 各道府県・市協議会代表者を集め、事業の主旨を説明し、活動内容の共有・情報交換を行った。</p> <p>3)食生活改善推進員が牽引するヘルスサポーター養成事業講習会 「若者」「働き」「高齢」世代と3つのライフステージに応じた講習会を行い、終了後、受講者を「ヘルスサポーター」として任命する。任命された「ヘルスサポーター」は地域において、食生活改善推進員と一緒に健康づくりの担い手として普及を図った。</p> <p>◎若者世代 食事バランスの偏りややせ、食塩摂取量や野菜摂取量の課題がみられることから、日々の生活習慣・食生活チェック、また、実際に塩分測定器を活用した自宅のみそ汁等の塩分量等を体感することで、「自分事」として課題を見出し、若い世代からの食習慣がのちの生活習慣病につながることを伝えた。またこの世代はウェブサイトやSNSから情報を得ていることも多いことから、正しい情報の取得法についても伝えた。全国275地区、ヘルスサポーター6,561名</p> <p>◎働き世代 多様なライフスタイルによる不規則な食生活、さらには肥満傾向や運動不足、食塩摂取量や野菜摂取量等の課題もみられることから、まずは、自分の健康状態の把握、そして、日々の生活習慣・食生活チェックや実際に塩分測定器を活用した自宅のみそ汁等の塩分量等を体感することで、「自分事」として課題を見出し、生活習慣病予防のための健康チェックの習慣化の必要性を伝えた。また、この世代では持ち帰り弁当・惣菜等の中食の利用頻度も高い世代であることから、中食の活用などとも伝え生活習慣の見直しを図った。全国279地区、ヘルスサポーター4,892名</p> <p>◎高齢世代 低栄養やロコモの問題や、新型コロナの影響での外出自粛の習慣化で人とつながりが閉ざされたこと等のフレイルへの影響が指摘されていることから、まずは、仲間づくりをしやすい少人数で講習会を実施し、高齢者の居場所づくりや共食の場の提供を図った。また、低栄養予防のためのランチョンマットやシニアカフェドリル(脳トレ)等を活用しながら、みんなで楽しむことで、日々の生活に活力や充実感を生み出すきっかけとし、地域のつながりの大切さや社会参加を促進した。併せて、骨折・転倒予防のために身近なご当地体操や手軽な筋トレなども加えロコモ予防にも取り組んだ。944地</p>		
3. 交付実績額		60,000 千円(A)	
4. 補助金等における管理費			
(1) 人件費		0 千円	
(2) 一般管理費		0 千円	
(3) その他の管理費			
	内容	金額	
		0 千円	
		千円	
	合計	0 千円	
	合計	0 千円	
5. 外部への支出			
(1) 外部に再補助・再委託等されているものに関する支出			
	支出内容	支出先	金額
			0 千円
			千円
	合計		0 千円(B)
(2) (1)以外の支出			
	支出内容	支出先	金額
	旅費	委員会・講習会旅費	4,489 千円
	報償費	委員会謝金	55 千円
	消耗品費	講習会材料代他	21,753 千円
	印刷製本費	星光社印刷他	25,280 千円
	通信運搬費	郵便他	2,277 千円
	借料及び損料	貸会場業者等	4,944 千円
	委託料	アンケート調査集計解析費	1,200 千円
	合計		60,000 千円
6. その他			
	内容		金額
			0 千円
	合計		0 千円
7. 再補助・再委託等の割合			0.0 % (B/A)

(注)千円未満は切り捨て